

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

No.59
9月号

2010年9月15日発行

夏の夜空に浮かぶ
色鮮やかな大輪



今月の表紙

今年も多くの人でにぎわった「夏祭り」。たんば夏まつりでは、七夕飾りが夏の雰囲気醸し出し、色鮮やかな光の大輪が京丹波の夜空を彩りました。(関連記事を20ページに掲載)

No.59 CONTENTS

2 特集・文化の祭典「国民文化祭」

9 将来の京丹波町の医療などを審議する「医療等審議会」が発足

10 京都府消防操法大会
京丹波町が小型とポンプ車操法の
両部門で3位入賞

14 絵本を通じてはぐくむ親子のふれあい
「ブックスタート」

15 刻まれた歴史を振り返り、
鉄道整備への思いを新たに
「鉄道開通100周年記念式典」

16 Dr's Message いきいき健康術

17 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2010

- 道路愛護への継続的な活動が評価
―「角・広瀬ボランティアロードの会」に感謝状
- 道路の美化活動への取り組みが評価
―「ボランティア・ロード丹波」に感謝状
- 丹波地域の活性化を目指した協議会が発足
―大丹波連携推進協議会
- 瑞穂中学校が全国大会でベスト8
―全日本中学生ホッケー選手権大会
- 寺尾町長が語るまちづくりへの思い
―きらりセミナー☆1
- 交通事故撲滅を目指して
―2010夏休みミニ交通安全教室と映画会
- 3年連続で竹野小学校が京都府代表校に
―J-KIDS大賞2010
- 交通網の充実を目指して
―三促進協議会理事総会
- 豊かな森づくりを目指した緑化活動
―「ニッセイの森友の会」が育樹活動を実施

20 夏祭り

特集・文化の祭典

「国民文化祭」

国内最大の文化イベントとして開催される「国民文化祭」。平成二十三年度には「第二十六回国民文化祭・京都二〇一二」(十月二十九日〜十一月六日)として京都府での開催が決定しており、本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」(十一月六日)の開催に向けて準備を進めています。

今回は、本町が進めている国民文化祭の取り組みや和知人形浄瑠璃の魅力などについて特集します。

和知人形浄瑠璃



江戸時代末期に大迫村(現京丹波町大迫)で起こったと伝えられています。当初は「大迫人形」と呼ばれ、農閑期に小型で粗末な張りぼて人形を操って楽しんでいましたが、昭和の初めに有志が集まり本格的な人形を取り入れて盛んにしたことから「和知文楽」と呼ばれるようになり、昭和六十年に京都府無形民俗文化財に指定

されたのを契機に「和知人形浄瑠璃」に名称を改められました。

喜怒哀楽の感情を語り分ける「語り」、場面に合った多彩な音色を奏でる「三味線」、大型の人形を一人で操る「人形遣い」。この三者が一体となって物語を演じます。



国民文化祭の取り組み

国民文化祭は、国内で伝統文化(民俗芸能など)や芸術文化(音楽、舞踏、演劇、吹奏楽、美術、文芸など)に親しんでいる個人や団体が集い、日ごろの練習成果を発揮する場として、昭和六十一年の東京都大会から毎年、各都道府県持ち回りで実施され、近畿二府四県では昭和六十三年の兵庫県大会から二十三年ぶりの開催となります。

京都府では、平成十七年九月に「第二十六回国民文化祭」の開催が決まって以来、基本構想の策定をはじめ、マスコットキャラクター「まゆまる」やロゴマークの決定、実行委員会の設置などの準備を進めています。それに併せて市町村もそれぞれ実行委員会を組織して主催事業についての協議を重ね、府内全域で「総合フェスティバル」(三事業)、「シンポジウム」(四事業)、「分野別フェスティバル」(六十二事業)の開催が決定しています。

本町では、地域の人々に愛され、親しまれてきた「和知人形浄瑠璃」を国民文化祭のメインテーマとして捉え、日本各地で守り伝えられてきた人形浄瑠璃の共演を通じて、地域に愛着と誇りをもたらす伝統芸能を継承していくことの大切さを伝えることを目的に「魅せる・人形芝居フェスティバル」(伝えよう人形浄瑠璃のこころ)の開催を計画。町全体で盛り上げていくために、平成二十一年七月に「第二十六回国民文化祭京丹波町実行委員会」(寺尾豊爾会長、委員十三人、以下「実行委員会」)を組織し、具体的な企画や実施方法などについて審議する「同実行委員会『人形浄瑠璃の祭典』企画委員会」(大田喜好委員長、委員六人、以下「企画委員会」)を設置して準備を進めています。

和知人形浄瑠璃の魅力

地域の伝統文化の一つとして親しまれ、さまざまな機会を通じて公演されている「和知人形浄瑠璃」。特徴や演目などを紹介する中で、多くの人を引き付ける魅力を探ります。

和知人形浄瑠璃の特徴

一般的に文楽人形は、首と右手で一人、左手に一人、両足に一人の合計三人で演じる「三人遣い」が主流ですが、和知人形浄瑠璃は一人で大形の人形を操る「二人遣い」が特徴。遣い手が人形のまゆや目、手の動きを巧みに操り、喜びや悲しみなどの感情を表現することで、まるで生きているかのように人形が動きます。

使う首は淡路型と呼ばれる大ぶりのもので、人形の重さが約四キになるものもあるため、操るには相当の体力が必要となることから、操り方や仕掛けに独特の工夫が施されています。

現存する首は、使っているものが約五十個、保存しているものが約二十個あり、中には名工の誉れ高い阿波の「天狗屋久吉」（天狗久）の作品もあります。

演目としては、舞台公演の無事と成功などを祈願する「三番叟」や、旧和知町に伝わる直訴事件を題材にした「長老越節義之誉」、徳島県の有名な「傾城阿波鳴門」などがあり、近年では「ATM振り込め詐欺 還付金詐欺の段」

傾城阿波鳴門

全十段からなる徳島藩のお家騒動に絡む物語。主君の盗まれた刀を詮議するため、盗賊の仲間に入り、大阪玉造で名前を変えて住んでいる阿波の十郎兵衛とお弓夫婦。ある日、十郎兵衛の留守中に巡礼姿の女の子が訪れ、お弓は話を聞くうちに国元に残してきた娘のお鶴とわかり名乗ろうとするが、盗賊の子として罪に問われるのを恐れて追いつ返す。しかし、今分かれてはもう会えないと思いを追う。

その後、お鶴は十郎兵衛に悪人の手から救われ、家に招かれる。娘とは知らない十郎兵衛は、金欲しさにお鶴を殺してしまふ。お弓から娘である事実を聞き、二人は嘆き悲しむが、捕り手が迫り仕方なく、お鶴の亡きからもうとも家に火をつけ、落ち延びていく。

長老越節義之誉

全四段からなる安積三響氏作詞作曲の物語。凶作が続く中、年貢の取り立てが厳しくなり、庄屋・猪平は村人のことを思い、藩主に年貢の減免を直訴するが、代官所に捕らえられ、厳しい取り調べの末に牢死する。妻のお紺は、亡き夫の遺志を果たすべく、村人らの反対を押し切り、長男・小太郎と次男・喜代松の幼子連れて極寒の長老ヶ岳を越えようとするが、厳しい寒さのため喜代松を途中で亡くす。

お紺は、喜代松の亡きがらを抱きしめ、自責の念にかられるが、涙をこらえて小太郎と共に長老ヶ岳を越え、夫の遺志を継いで藩主に直訴する。



名工・天狗久が手がけた「首」

創作をはじめ、台本を現代風に手直する工夫などもされています。それぞれの演目には、時代背景や地域の歴史が深く反映されており、独特の言い回しで喜怒哀楽を表現する語りと、繊細な動きに合わせて豊かな表情を見せる人形たちが、見物客を物語の中に引き込みます。物語の魅力を知っていただくために、代表的な演目のあらすじを紹介します。

伝統芸能を継承する和知人形浄瑠璃会の取り組み

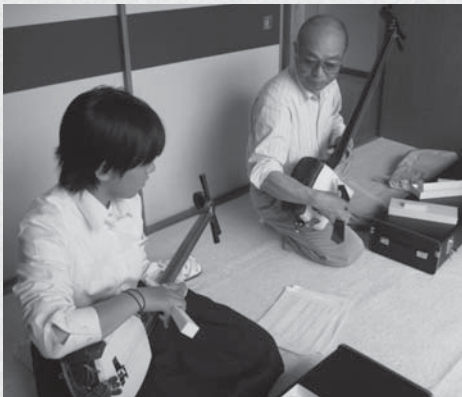
和知人形浄瑠璃は現在、「和知人形浄瑠璃会」（大田喜好会長、会員十三人）が、公演や人形の保存をはじめ、後継者育成を目指した活動を展開。同会には、五十一・八十代の十三人が在籍し、「語り」三人、「三味線」二人、「人形遣い」八人で活動しています。

地元の小・中学校でも地域の伝統芸能に対する関心が高く、和知小学校では平成十三年の開校以来「人形浄瑠璃クラブ」（部員数は現在、四一六年生の児童十三人）を設置し、同会の指導を受けながら月に二・三回程度の練習を実施。和知中学校では、平成十六年度から「総合的な学習の時間」の一環として、希望する生徒二十人が同会の指導を受けながら二週間に一回程度練習を行っています。

各学校では、日ごろの練習成果を披露し、人形浄瑠璃の良さを多くの人に伝えるために、文化祭や地域行事をはじめ、町外のイベントなどに積極的に参加。来年度の国民文化祭への出演に向けて、それぞれ練習に励んでいます。



人形の操り方を学ぶ和知中の生徒



三味線の弾き方を学ぶ和知中の生徒



悲しみの中、喜代松の亡きがらを抱きしめる見せ場を演じる浄瑠璃会



藩主への直訴を果たす感動の場面を演じる浄瑠璃会



「三番叟まわし」と「箱廻し」を披露する阿波木偶箱廻しを復活する会



「生写朝顔話」を披露する三原中の生徒



登場人物の喜怒哀楽を言葉で語り分ける和知中の生徒



三味線で多彩な音色を奏でる和知中の生徒

地域に息づく人形浄瑠璃が共演
「魅せる・人形芝居
フェスティバル」プレ事業

来年度の「魅せる・人形芝居フェスティバル」伝えよう
人形浄瑠璃のこころに向けて、町民のみなさんの気
運醸成と人形浄瑠璃の魅力を広く伝えるために、八月一
日に開催した「プレ事業」。三百六十五人が来場する中、
和知ふれあいセンターを舞台に、出演団体がそれぞれの
地域に息づく人形浄瑠璃を披露しました。



親子が対面する感動の場面を演じる和知小の児童



別れた娘のことを心配する切ない母の気持ちを表現する和知小の児童



祖母の反対を押し切り、幼子連れて家を出る場面を演じる和知中の生徒



感情を込めて台詞を語る和知小の児童

和知中学生が心を込めて演じきる中、浄瑠璃会も熟練の技を惜しみなく発揮し観客を魅了しました。

すべての演目が終わると、実行委員会副会長の朝子照夫教育長が「出演者の熱演に心を打たれた大きな感動を与えていただき、人形浄瑠璃を通じて多くのみなさんと心を通わすことができました。来年の国民文化祭がより素晴らしいものとなるよう取り組んでいきますので、本大会にもぜひお越しください」と、プレ事業の感想と来年度への意気込みを交えて、閉会のあいさつをしました。

この日は、上演に先立ち、実行委員会会長の寺尾豊爾町長が「来年度の国民文化祭に向けて、府内各地でさまざまな催しが行われる中、本町ではプレ事業として『人形浄瑠璃の祭典』を開催しました。徳島県や兵庫県から出演いただき、それぞれの地域で受け継がれてきた伝統芸能を披露していただきます。みなさん楽しんでください」とあいさつした後、阿波木偶箱廻しを復活する会（徳島県が「三番叟まわし」と「箱廻し」を披露し、祝福芸で公演の最初を飾りました。

祝福芸が終わると、国民文化祭のPR隊長・まゆまろが会場に登場し、事業成功に向けたPRを行い、プレ事業に華を添えました。

続いて、南あわじ市立三原中学校（兵庫県）による「伊達娘恋絆鹿子八百屋お七 火の見櫓の段」、和知小学校による「傾城阿波鳴門 巡礼歌の段」、三原中学校による「生写朝顔話」が次々と披露され、子どもたちが見せる巧みな人形さばきと力強い語りなどに、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

公演の最後を締めくくったのは、和知人形浄瑠璃会と和知中学校合同による「長老越節義之督」の演目。地元伝わる実話に基づく物語を、

第二十六回国民文化祭京丹波町
実行委員会「人形浄瑠璃の祭典」企画委員会

委員長 大田 喜好さん
おおた きよし

人形浄瑠璃が日本人の心を伝える伝統芸能との認識のもと、国民文化祭で「人形浄瑠璃の祭典」が開催されることをうれしく思います。

これまでに企画委員会では、「ジョーリリ」公演、人形芝居サミット&フェスティバル（徳島県）や「国民文化祭しずおか二〇〇九」（静岡県）の視察などを行い、そこで学んだことを生かして、プレ事業や同祭典の準備を進めてきました。その甲斐あって、プレ事業には多くの方に参加いただき、京丹波町に素晴らしい伝統芸能があることをPRすることができました。

今後は、来年度の本番でより一層多くみなさんに人形浄瑠璃の良さが伝えられるよう、プレ事業の反省をもとに検討を重ねるとともに、関係機関との連携を図りながら取り組みを進めていきます。



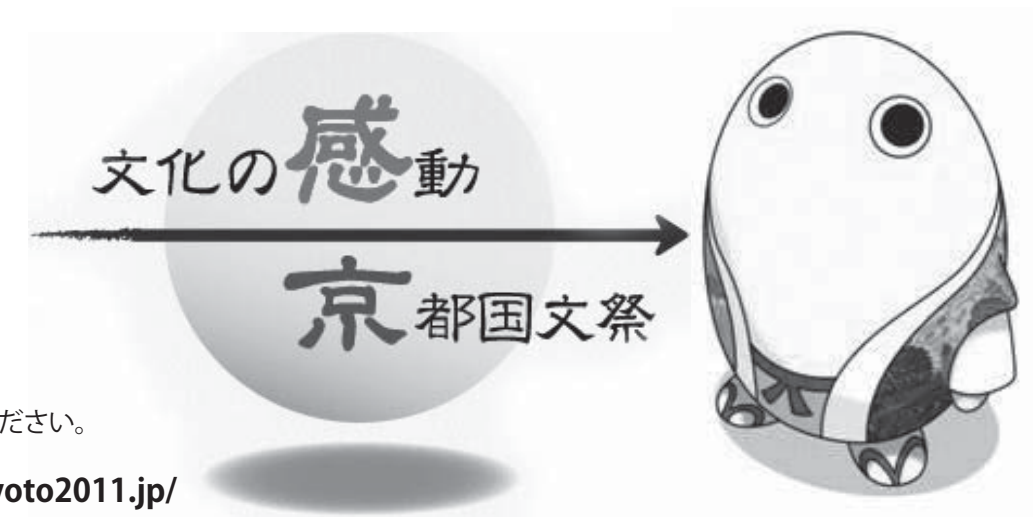
国民文化祭を
成功させるために

国民文化祭では、芸術文化や伝統文化をはじめ、開催地の特色を生かしたたくさんの催しが、期間中（平成二十三年十月二十九日―十一月六日）に府内各地で計画されており、南丹地域では、亀岡市で「亀岡祭」「民俗芸能の祭典」、南丹市で「工房と里の秋めぐり」「里の秋マップ」「美術展「工芸」」などが開催されます。

本町で開催する「人形浄瑠璃の祭典」では、人形浄瑠璃の上演をはじめ、町内の伝統芸能や特産物の情報を発信し、訪れるみなさんに京丹波町を幅広くPRするよう考えており、現在、出演団体の募集を全国に向けて行っています。

平成二十三年に入ると、四月一日―十一月三十日までの八か月間、府内各地でさまざまな協賛事業も行われます。

国民文化祭の情報は、京都府のホームページをはじめ、さまざまな機会を通じてお知らせしていきます。半世紀に一度の京丹波町の事業成功に向けて、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

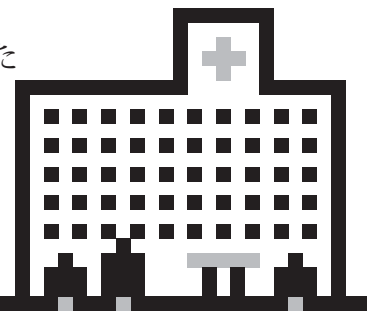


* 国民文化祭の情報は、次のホームページをご覧ください。
京都府ホームページ
<http://kokubunsai-kyoto2011.jp/>

将来の京丹波町の医療などを審議する

「医療等審議会」が発足

今後の本町の医療などの将来像を調査、研究する
「京丹波町医療等審議会」が発足し、
8月20日に町中央公民館で初会合を開催。
寺尾町長の公約である地域医療の充実に向けた
新たな取り組みがスタートしました。



同審議会は、町議会議員や町立医療機関の医師、学識経験者の十人で組織し、府立医大の山岸久一学長が顧問として参画。地域医療の確保や保健・福祉などの連携も含めた、今後の医療などのあり方について審議することを目的に、二十二年度六月議会定例会で可決された同審議会設置条例に基づき設置しました。

初会合では、寺尾豊爾町長が審議会顧問と委員一人ずつ全員に委嘱状を交付した後、委員の互選により、会長に波瀬孝澄さん、副会長に吉田昭さんを選出。続いて、寺尾町長が波瀬会長に諮問書を手渡し、「京丹波町の医療の確保および町立医療機関のあり方について」と「京丹波町における福祉と医療の連携について」の二項目を審議会に諮問しました。

審議会に入ると、委員らは各医療施設の運営状況や経営状況などの説明を事務局から受け、町立医療施設の現況把握による調査・研究を行いました。

今後は、十月から毎月一回程度のペースで会議を開き、二十二年中に審議結果をまとめ、町長へ答申書を提出される予定です。



寺尾町長から諮問書を受け取る波瀬会長（町中央公民館・蒲生）

- 医療等審議会委員 ※敬称略
- 会長 波瀬 孝澄（町社会福祉協議会長）
 - 副会長 吉田 昭（町区長会副会長）
 - 委員 中西 和之（町区長会長）
 - 水嶋 正治（町区長会副会長）
 - 北尾 潤（町議会議員）
 - 横田 昇平（府南丹保健所長）
 - 佐藤 秀一郎（船井医師会京丹波班長・京丹波町病院長）
 - 並河 治之（府歯科医師会口丹波支部京丹波代表）
 - 畑中 克彦（園部消防署副署長兼丹波出張所長）
 - 櫻井 博規（山彦会理事長）
 - 顧問 山岸 久一（府立医科大学長）

【問】医療政策課（京丹波町病院内） ☎86-0220

【問】第26回国民文化祭京丹波町実行委員会事務局（教育委員会内） ☎84-0028

京都府消防操法大会 京丹波町が小型と ポンプ車操法の 両部門で三位入賞

八月一日、丹波自然運動公園補助競技場で行われた「第二十二回京都府消防操法大会」(京都府、財団法人京都府消防協会主催)。本町からは、小型ポンプ操法の部に瑞穂支団第三分団、ポンプ車操法の部に和知支団第三分団が出場し、それぞれの部門で三位入賞という輝かしい成績を収めました。

同大会は、消防団員の技能向上と士気高揚を図り、消防活動の充実に寄与することを目的に、昭和四十五年から隔年で開催。今回は、府内二十六市町村の消防団員や消防職員ら約千五百人が参加する中、小型ポンプ操法の部に二十一消防団、ポンプ車操法の部に九消防団が出場しました。

開会式では、各消防団が息の合った分列行進で入場した後、開会宣言や人員報告、優勝旗返還などを実施。続いて、山田啓二知事が「日ごろから操法技術や消火機能の向上をはじめ、団員相互の連携に努めていただいているが、本日はその成果を競う場であり、各地の予選を勝ち抜かれたみなさんによる見事な操法が披露されることを期待します」と式辞を述べました。

操法競技に先立って行われたデモンストレーションでは、南丹市消防団が約六十年前前まで使用していた腕用ポンプによる操法を披露。手押しポンプを使って放水する昔懐かしい姿に、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

操法競技が始まると、瑞穂支団が小型ポンプ操法の部で一番目、和知支団がポンプ車操法の部で六番目に出場。厳しい暑さの中での競技となりましたが、要員たちは六月二十一日の結団式から約四十日間にわたる訓練で培ってきた成果を遺憾無く発揮し、京丹波町の代表として見事な操法技術を披露しました。

すべての競技が終了し、和知支団と瑞穂支団がそれぞれの部門で三位入賞と発表されると、要員たちは共に訓練に励んできた指導員や団員らと抱き合って喜びを分かち合いました。



火点を目指してホース延長する
2番員と3番員(和知支団)



水圧を抑え込んで火点を打ち抜く
3番員(和知支団)

筒先員の交代をする指揮者と1番員(瑞穂支団)



ホースの結合を待つ1番員(和知支団)



本番の前に円陣を
組んで気合を入れる要員
(瑞穂支団)



敬礼で操法を締めくくる要員(和知支団)



呼吸を合わせて吸管を延長する2番員と3番員(瑞穂支団)



駆け足で退場する要員(瑞穂支団)



操法を終えて喜びの握手を交わす指導員と要員(瑞穂支団)



操法を終えた要員をねぎらう指導員(和知支団)

- ◆小型ポンプ操法の部
- 優勝 宮津市消防団
 - 準優勝 京丹後市消防団
 - 第三位 京丹波町消防団(瑞穂支団第二分団)
 - 第四位 精華町消防団
 - 第五位 与謝野町消防団
 - 第六位 伊根町消防団
 - 奨励賞 宇治田原町消防団

◆ポンプ車操法の部

- 優勝 宮津市消防団
- 準優勝 京丹後市消防団
- 第三位 京丹波町消防団(和知支団第三分団)
- 奨励賞 舞鶴市消防団

操法要員にインタビュー

3位入賞を果たした感想は？



入賞を喜ぶ選手と幹部団員ら



ポンプ車操法の部で入賞した和知支団第3分団の要員

和知支団 第3分団 (和知本部)



小型ポンプ操法の部で入賞した瑞穂支団第2分団の要員

瑞穂支団 第2分団



《4番員》水嶋賢さん



《3番員》野間大輔さん



《2番員》尾崎哲夫さん



《1番員》片山隆二さん



《指揮者》西村博之さん

指導員並びに団員の支えのもとで出場させていただき、三位入賞という成績を残せたことを十分喜びたいと思います。本当にありがとうございました。

指導員をはじめ、幹部や第三分団員みなさんのおかげで結果を出すことができました。入賞できてうれしく思っていますし、完全燃焼できたので本当に満足しています。

訓練の成果を遺憾無く発揮できたと思います。町大会や府大会の結果を今後の消防活動に生かせるように、決意を新たに地域防災に努めていけるようがんばっていきます。

ベストを尽くせたと思いますし、入賞という結果がありがたいです。訓練期間中に多くの方にご支援をいただいたことで、入賞できたと思っています。ありがとうございました。

訓練期間中、団員一丸となって取り組めたことを大変うれしく思っています。また、三位入賞することができたのは応援いただいたみなさんのおかげです。ありがとうございました。



《3番員》小林敬弘さん



《2番員》梅垣祐太さん



《1番員》小原直也さん



《指揮者》梅垣徹さん

本番の操法がこれまでの中で一番良いでできた。訓練が始まった当初はしんどかったが、だんだん楽しく訓練ができるようになり、三位入賞という結果が残せてよかったです。

訓練期間中はしんどかったが、入賞を目指してがんばってきたので三位入賞の結果はうれしいです。でも、正直な気持ちは優勝できなかったことが悔しいです。

周りの方に応援いただくことで、このような結果が得られました。ありがとうございます。満足できない部分もありましたが、これが実力だと思い、結果を素直に受け止めます。

幹部をはじめ、多くのみなさんのご指導のもと三位入賞することができました。レベルの高い大会で入賞できたことに満足していますし、応援いただいた団員や家族に感謝しています。



式典であいさつを述べる野間会長（和知ふれあいセンター・本庄）

開式に先立ち、和知人形浄瑠璃会が、おめでたい席にふさわしい演目として知られる「三番叟」を披露し、祝賀ムードを盛り上げた後、開式のあいさつを同実行委員会の野間之暢会長と寺尾豊爾町長が述べました。

野間会長はあいさつの中で、「明治四十三年八月二十五日に鉄道が開通し、時間を重ねるごとに沿線地区住民の生活には無くてはならないものとなりました。そのようなことから毎年、鉄道開通を祝つて祭りを開催してきましたが、今年も多くのみなさんに参加いただき、百周年を祝うことができたことをうれしく思います」と感謝の気持ちを表しました。

続いて、鉄道百年の歴史を収めたスライドが上映され、出席者らは映し出される映像を見ながら鉄道の移り変わりを懐かしんでいました。

スライドが終わると、京都府知事代理・伊藤秀一南丹広域振興局長からの来賓祝辞や祝電の披露が行われ、その後、畠中源一副町長が鉄道の活用によるまちづくりを推進することを記した「決議案」（別枠のとおり）を読み上げ、出席者からの賛同を受けて決議しました。

式典の最後には、西山和樹議長（にしやま かずき）の発声



鉄道コレクションのコーナーを見つめる来場者

刻まれた歴史を振り返り、鉄道整備への思いを新たに 「鉄道開通一〇〇周年記念式典」

八月二十二日に和知ふれあいセンターで開催された「鉄道開通一〇〇周年記念式典」（わちふるさと祭り実行委員会主催）。式典には町民ら約一六〇人が出席し、鉄道と共に歩んできた町の歴史を振り返りながら、鉄道整備への思いを新たにしました。

■決議文

（前文省略）

- 一 町の玄関口である主要駅の周辺環境の整備について、地域住民や関係団体との協働を図りながら官民一体となつて取り組み、安心のまちづくりを行うこと。
- 一 利便性の高い鉄道整備に向け、国と地方の適切な役割分担のもと、京都府や関係自治体とともに必要な予算を確保し、園部以北の複線化の着実な推進を図り、活力あるまちづくりに取り組むこと。
- 一 官民が一体となつて利用促進活動を展開し、親しみやすい鉄道の活用を図り、愛のあるまちづくりの推進を行うこと。



すべての赤ちゃんのまわりで楽しく温かいひとときが持たれることを願い、絵本を開く楽しい体験と一緒に、お気に入りの絵本をプレゼントする「ブックスタート」。本町では、親子がふれあうきっかけづくりとして、本年4月から取り組みを始めました。



読み聞かせの中で、興味深く絵本を見つめる赤ちゃん（瑞穂保健福祉センター・和田）



町がプレゼントしている絵本。この中から1冊を選んでもらいます。

「ブックスタートは早く、メディアスタートは遅く」の実践を

絵本の読み聞かせでは保護者と赤ちゃんが感情を確かめ合うことができますが、テレビなどのメディアは一方向の情報伝達のため赤ちゃんの感情表現に影響を及ぼす可能性があります。そのため、本町では「ブックスタートは早く、メディアスタートは遅く」を促しています。

また、親子の自然な関わりを大切にするために、テレビなどを見る際には、次のことに注意してください。

- 2歳までの視聴は控える。
- 授乳中や食事中は視聴しない。
- 1日2時間までを目安として時間制限する。（ゲームは30分まで）
- 子ども部屋にテレビなどを置かないようにする。
- 上手に利用するためのルールを作る。

それぞれの場面をわかりやすく表現した絵と、語りかけられるような言葉で物語が描かれている「絵本」。保護者らが優しく絵本を読んでいることで、赤ちゃんは絵本に興味を持つようになり、絵を見つめたり、指差したりして楽しむため、お互いがごく自然に心を通わせることができます。そのようなことを踏まえて、保護者が赤ちゃんに絵本を読んでもらえるきっかけづくりとして取り組んでいるのが「ブックスタート」です。

本町では、絵本を通じた親子のふれあいが少しでも早く持てるように、出産後初めての健診となる三〜四か月児健診と併せて実施。健診の空き時間を利用して、子育て支援センターの職員が、赤ちゃん

と保護者一組ごとに絵本の大切さや読み聞かせを行うときのアドバイスなどをした後、保護者と一緒に赤ちゃんの反応を見ながら「いいないない ばあ」の読み聞かせを行います。そして、自宅ですぐに絵本の読み聞かせができるように、三冊の絵本の中からお気に入りの一冊を選んでもらい、その絵本をプレゼントしています。

この取り組みで大切なのは、絵本を通じて親子のふれあいはぐくんでいただくことです。みなさんも、日ごろの生活の中で、ゆつくりと心ふれあうひとときを持つように心がけてください。

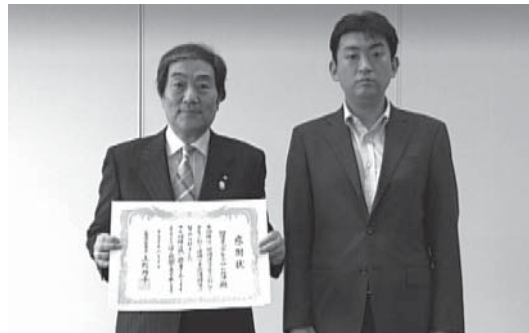
【問】保健福祉課 ☎86-1800

道路の美化活動への取り組みが評価

■「ボランティア・ロード丹波」に
感謝状

地域住民が主体となってボランティアで国道九号の美化活動を行う「ボランティア・ロード丹波」がこのほど、多年にわたり道路の美化作業に努めてきた功績が評価され、近畿地方整備局長から感謝状を受けました。

これまで参加いただいた多くのみなさんに感謝を申し上げるとともに、今後も美しいまちづくりへのご理解とご協力をお願いします。



感謝状を受けた寺尾豊爾町長(左)
(国交省京都国道事務所・京都市内)

道路愛護への継続的な活動が評価

■「角・広瀬ボランティアロードの
会」に感謝状

このほど、「角・広瀬ボランティアロードの会」(片山太代表、会員二十人)が、国土交通大臣から感謝状を受けました。

同会は、平成十六年から毎月一回程度、府道市島和知線で道路の清掃や除草作業などを実施されており、多年にわたり継続的に道路愛護活動に努められている功績が認められての受賞です。



感謝状を受けた同会代表の片山太さん(京都府公館・京都市内)

『肩こりについて』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院の看護師主任 大西正美さん。年齢・性別を問わずにおくる肩こりについてのお話です。

肩

こりを防ぐには、まず原因を理解することが大切です。肩こりの原因としては、運動不足、姿勢が悪い、目の疲れ、年齢的なもの、他の病気があるなど、さまざまなものが考えられます。

なお、肩こりや痛みの原因になる病気や損傷としては、次のようなものがあります。

- 頸肩腕症候群…いわゆる肩こり
- 肩関節周囲炎(四十肩・五十肩)
- 肩関節に伴う周囲組織の炎症
- 胸郭出口症候群…神経、血管の圧迫障害
- 変形性頸椎症…頸椎の老化
- 頸椎椎間板ヘルニア…椎間板の老化
- むち打ち損傷…頸椎の外傷

■肩こりを防ぐには

肩こりを予防・解消するには、正しい姿勢を意識しましょう。また、筋肉の緊張を解き放つ「肩こり体操」を続けることや、生活習慣と環境を改善することが肩こり解消の基本です。



看護師主任 おおにし まさみ
大西正美さん(京丹波町病院)

ただし、正しい姿勢やストレス解消、自分にあった眼鏡・コンタクトの使用、生活習慣や環境改善、ストレッチや肩こり体操などで改善する肩こりは心配いりませんが、頭痛を伴ったり、なかなか改善しない場合は「ただの肩こり」と思わず早めに医療機関で受診し、治療を受けてください。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
(電話) 86-0220

丹波地域の活性化を目指した協議会が発足

■大丹波連携推進協議会

「大丹波連携推進協議会」の発足式が七月二十九日、サンプラザ万助で行われ、関係者ら約五十人が出席しました。

同協議会は、歴史的・文化的につながりが深い京都府と兵庫県にまたがる丹波地域の活性化を目指し、地域の振興や課題解決に向けて連携した取り組みを推進することを目的に設立。同協議会には、丹波地域に関わる二府県(京都府、兵庫県)と七市町(京丹波町、南丹市、亀岡市、綾部市、福知山市、篠山市、丹波市)が参画し、丹波ブランドのPRや観光振興などを連携して行います。

発足式では、協議会の取り組み概要や、「ゆめタウン氷上」(丹波市)で行われたプレイベントなどについて報告された後、参画する自



発足式で京丹波町をPRする畠中副町長
(サンプラザ万助・福知山市)



ゆるキャラと一緒に大丹波をPRする職員(JR福知山駅・福知山市)

治体がそれぞれの町の名所や特色、ゆるキャラなどを紹介。本町のPRでは、畠中源一副町長が「国道九号・二七号・二七三号が交わる立地条件のもと、年間四十五万人が訪れる丹波自然運動公園を有していることから、それらを有効活用した『交流のまちづくり』を展開し、地域の活性化を図っていきたい」と話しました。

続いて、JR福知山駅に移動して行われた発足記念イベントでは、参画する自治体のゆるキャラたちと一緒に啓発物品の配布などを行い、丹波地域の活性化に向けてPRしました。

瑞穂中学校が全国大会でベスト八

■全日本中学生ホッケー選手権大会

八月十三日―十六日にかけて、第四十回全日本中学生ホッケー選手権大会(社団法人日本ホッケー協会主催)が岡山県岡山市・赤磐市で行われ、瑞穂中学校男子・女子チームが京都府代表として出場しました。

同大会は、ホッケー技術の向上と生徒相互の親睦を図ることを目的に、全国各地の地区予選を勝ち抜いた精鋭六十四チーム(男女各三十二チーム)が出場して実施。男女それぞれが八組に分かれて予選リーグ戦を行った後、各組上位二

チームが進出して決勝トーナメントを行い、順位を競いました。

大会に出場した瑞穂中学校は、女子チームが予選リーグで二勝一敗の成績を収め、決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは、一回戦で対戦した伊万里・啓成中(佐賀県)に二―で勝利しベスト八入りを果たしましたが、二回戦で対戦した朝日中(福井県)に熱戦の末一―六で敗れ、ベスト四入りを逃しました。一方、男子チームは、健闘しましたが予選リーグで一勝二敗の成績となり惜しくも予選敗退となりました。



果敢に攻め込む瑞穂中学校の選手(赤磐市熊山運動公園・岡山県)

なお、大会出場選手のうち男女各十八人が選出される優秀選手に、西村紗楽さん(三年)が選ばれました。

また、同大会は毎年、開催地を移して行われており、来年度はグリーランドみずほを会場に計画されています。

寺尾町長が語るまちづくりへの思い

■きらりセミナー☆

男女共同参画についての理解を深めるための「きらりセミナー☆I」(町・京丹波町きらりネットワークの会主催)が七月二十八日、和知ふれあいセンターで行われ、約八十人が参加しました。

今回の講座では、京丹波町きらりネットワークの会の企画により、寺尾豊爾町長が「一人ひとりが大事! みんなが輝くまちづくり」と題して

講演。寺尾町長は、多くの人との対話の中で感じたことや町政運営の



まちづくりへの思いを話す寺尾町長(和知ふれあいセンター・本庄)

基本方針などを説明する中で、「何かを建設するのではなく、医療や福祉、文化などの見えない価値を大切にすること、町民のみなさんの安心を第一に考えたまちづくりを進めています。今後も、『福祉・安心型のまちづくり』を町政運営の柱とし、町民のみなさんが京丹波町に愛着を持ち、終の住み処として感じてもらえるような施策を展開していきます」と、まちづくりへの思いを話しました。

交通事故撲滅を目指して

■二〇一〇夏休みミニ交通安全教室と映画会

「二〇一〇夏休みミニ交通安全教室と映画会」(南丹船井交通安全協会京丹波支部主催)が八月八日、山村開発センターみずほで行われ、親子連れら七十五人が来場しました。

この取り組みは、夏の交通事故防止府民運動(七月二十一日―八月二十日)の一環として、夏休み期間中の交通事故撲滅を目指し、今回初めて実施。この日は、京都府南丹警察署交通課の職員が腹話術を交えて交通ルールなどをわかりやすく説明した後、ドキュメンタリー感動大作として話題となった「オーシャンズ」を上映し、命の大切さを伝えながら交通事故への注意を呼びかけました。



腹話術を交えたミニ交通安全教室を行う南丹警察署の職員(山村開発センターみずほ・大朴)

三年連続で竹野小学校が京都府代表校に

■J-KIDS大賞二〇一〇

竹野小学校のホームページが「J-KIDS大賞二〇一〇」(同実行委員会主催)の京都府代表校に三年連続で選ばれ、八月二十一日に同校で表彰状の贈呈式が行われました。

この取り組みは、インターネット上で公開されている全国の小学校のホームページ(約一万九千校)を対象に、わかりやすさや更新頻度、学校情報の公開状況などを審査して、都道府県等代表校(五十二校)を選考し、全国大会を経て、「J-KIDS大賞」「文部科学大臣賞」「総務大臣賞」「経済産



竹野小のホームページを見つめる児童(竹野小学校・高岡)

業大臣賞」を決定するもの。今回、同校が、府内四百十二校の中から京都府代表校に選ばれ、三年連続で全国大会出場という快挙を果たしました。同校では、ホームページの作成や更新に全職員が関わって運用しており、学校の様子をわかりやすく紹介する「わかたけブログ」や、毎日の献立を紹介する「ランチブログ」などを頻繁に更新しています。

豊かな森づくりを目指した緑化活動

■「ニッセイの森友の会」が育樹活動を実施

ボランティアで緑化を目指した活動を全国的に展開している「ニッセイの森友の会」が七月三十一日、和田地内の山林で育樹活動を行い、会員ら約百十人が参加しました。

同会は、和田区山林管理会や京都府、町と協力して、平成十九年度に植樹を行い、平成二十年度からは木々を豊かな森に育てることを目的に育樹活動を実施。昨年度は雨天のため作業が中止となりましたが、今回は真夏の太陽が照りつける中、約三時間をかけて下草刈りや剪定作業などに励みました。



草刈り作業などに励む参加者(和田地内)

交通網の充実を目指して

■三促進協議会理事総会

平成二十二年度三促進協議会理事総会が八月九日、ガレリアかめおかで開催され、役員ら約五十人が出席しました。

三促進協議会は、「北陸新幹線口丹波建設促進協議会」(栗山正隆会長・亀岡市長)、「山陰本線京都中部複線化促進協議会」(佐々木稔納会長・南丹市長)、「京都縦貫自動車道(丹波―和知間)建設促進協議会」

(寺尾豊爾会長・京丹波町長)の三つの協議会の総称で、本町と亀岡市、南丹市の理事者や議会議員、商工会、森林組合など公共的団体の代表者らが理事として参画し、交通網の整備促進に向けた陳情や要望活動などを行っています。

この日の会議では、それぞれの促進協議会の事務局が、平成二十一年度事業経過と決算報告、平成二十二年度事業計画と予算案を提案し、すべての議案が承認・可決されました。



情勢報告をする寺尾町長(ガレリアかめおか・亀岡市)

職員の配置

(敬称略)

■退職(八月十日付)

滝本圭介(京丹波町病院理学療法士)

■異動(九月一日付)

米山栄一(京丹波町病院看護師)

わたしたちの町

人口
16,721(−36)
男
7,892(−22)
女
8,829(−14)
世帯数
6,463(−9)
9月1日現在/()は前月比



屋台でスーパーボールすくいを楽しむ子どもたち(たんば夏まつり)

夏祭り

夏の風情が味わえる「夏祭り」。今年も町内では、たんば夏まつり(8月5日)、みずほ夕涼み大会(8月8日)、わちふるさと祭り(8月22日)が盛大に開催され、訪れた多くの人たちでにぎわいました。



祭り会場をパレードする松山小学校鼓笛隊(みずほ夕涼み大会)



大正琴の美しい音色を響かせる琴遊会八重さくら(みずほ夕涼み大会)



ミュージックベルを演奏する町商工会女性部(たんば夏まつり)



手話を交えた合唱を披露する和知中学校女子合唱団(わちふるさと祭り)



保存会の音頭に合わせて和知文七踊りを踊る人たち(わちふるさと祭り)



瑞穂そば一本つるつる大会で、3メートルのそばをはしを使わずに食べる参加者(みずほ夕涼み大会)

今回、ブックススタートを取材する中で、3・4か月の赤ちゃんが興味深く絵本を見つめ、かわいらしい笑顔を見せる姿がとても印象的でした。と言うのも、赤ちゃんが絵本に興味を持つのはもっと遅いと思っていたことから、読み聞かせで喜ぶ姿を想像していなかったからです。絵や文章が理解できなくても、その場の雰囲気を楽しめる絵本。取材を通じて、赤ちゃんから大人まで幅広い人が楽しめる絵本の魅力を改めて感じました。(K)

編集後記

鉄道開通100周年を記念して打ち上げられた花火(わちふるさと祭り)



線香花火長持ち大会に参加する人たち(みずほ夕涼み大会)